

第64回全国植樹祭式典音楽専門委員会(第2回)議事録

平成24年4月24日(火)
15:00~17:05
西部総合事務所第16会議室

(凡例)

●…委員発言

○…事務局職員発言

□…オブザーバー発言

○梅田参事

定刻になりましたので、ただいまより第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会式典音楽専門委員会第2回会議を開催いたします。なお、本日もオブザーバーとして全国植樹祭基本計画の策定に関わっていただきました乃村工藝社・日本海テレビジョン放送共同企業体から乃村工藝社の高井さんと浅野さんに出席いただいております。

□乃村工藝社 高井・浅野両ディレクター(以下「D」という。)

よろしくをお願いします。

○梅田参事

議事に入ります前に、全国植樹祭課長 大北から一言ご挨拶を申し上げます。

○大北課長

皆さま改めましてこんにちは。全国植樹祭課の大北でございます。

この4月から全国植樹祭準備室が全国植樹祭課ということになりまして、ご当地米子市に事務所を置くことになりました。本番に向けてしっかり準備を進めてまいりたいというふうに思っております。

先日4月15日山口県のほうに行ってまいりました。総合リハーサルでございます。吹奏楽隊は警察音楽隊32名その他高校生を主体にして170名規模、合唱隊も高校生と一部中学生12名を交え111名という編成でございました。併せて281名という規模でございました。また、山口県ならではのバンブーオーケストラ、山口県は非常に竹材の生産が盛んだということでバンブーオーケストラが128名というようなことで、まさに式典音楽隊は式典の中の花形的な存在であったということでございます。

また、陛下が御発になられる際にはバンブーオーケストラが「ふるさと」の演奏をしてお見送りというようなことで、ちょっとやられたかなというような感じがしております。

来年の今頃は総合リハーサルあるいは本番に向けた練習ということでそういう状況にあるということに関してなかなか気が抜けないなというふうに感じておるところでございます。

本日は前回協議していただきました式典音楽隊の編成、選曲について具体的なご意見をいただきたいと思っております。

ここまでの検討状況は、明日の午後実行委員会が開催されます。知事も出席いたしますが、その総会において報告させていただきたいというふうに思っております。

委員の皆さま方には全国植樹祭開催に向けて引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

それと、お手元に全国植樹祭のボールペンとトッキーノのおせんべいを配らせていただいておりますのでPRのほどよろしくお願いいたします。

以上です。

○梅田参事

続きまして、小谷委員長をお願いします。

●小谷委員長

皆さんこんにちは。

4月もう終わりで植樹祭の本番がちょうど1年という状況になっております。式典音楽の選曲等々をやるんですけども、精力的にご意見いただいて決めるべきものは決めていきたいというふうに思いますのでよろしくをお願いします。

○梅田参事

それでは議事に入りますが本会の会則によりまして議長は小谷委員長に務めていただきます。よろしく願いいたします。

●小谷委員長

それでは座って失礼します。

お手元の次第にありますように資料1の選曲について、ということで事務局のほうからご提案をします。

○濱本補佐

では私のほうから、資料2まで説明させていただきたいと思います。

前回の会議では鳥取県の輩出した童謡・唱歌の作曲家、例えば岡野貞一、田村虎蔵、高木東六、鳥取県を表現するために童謡・唱歌へ選曲をしていくという大きな方向性をいただいたところがございます。

前回の資料では何案か選曲方針の組み合わせを示しておりましたが、今回方向性が決まりましたので、資料1で式典の音楽が使われる場面、時間と共に選曲案のところに入っておりますのが先催3回、60と書いてあるのが第60回の福井大会、61と書いてありますのが第61回神奈川、62が和歌山で使われた音楽を書いています。

これをもとに委員会の先生方にどのような曲を選んで演奏していけばいいかを選曲していただきたいと思っております。

資料1が先ほども説明いたしましたように音楽が使われるプログラム、演奏時間、60回大会、61回大会、62回大会で使われた音楽でございます。

選曲案のところの色が変えていますが、青のところ、12番のところ、三旗掲揚・国歌斉唱で「君が代」がされると決まっているところ、ファンファーレだと決まっているところが青で記入しております。

白いところは各県で音楽が演奏されているところ、ここを中心に選んでいっていただきたいと思っております。

それから、ピンクのところは会議の終わりのほうに説明させていただきます採譜、自然の形から楽譜を作っていく採譜を採用していった新しい曲をつくるということですので、白いところ、それからグレーのところは音楽なしのところ、それから19番のリレーセレモニーは新潟県が音楽を考えてくること、こういうふうになりますので、白いところ、ファンファーレのところについてご意見いただきたいなと思っております。

その次に資料2の説明に移します。

資料2は鳥取県が輩出した音楽家の童謡、唱歌をピックアップしてまいりました。資料の下のほうに書いてありますが、みなさんご存知かもしれませんが、童謡唱歌のふるさと鳥取こどものうた名曲・日本創作童謡コンクール作品集」ここに載っているものをとりあえず持ってきております。この本はよく見ると他にもけっこうあるんですけど、ここからピックアップされた曲ということで、もちろんこれだけではないんですけど、資料としてこれを持ってきております。これをご提示させていただきました。

ですから、音楽家の方8人の合計18曲を資料にあげております。

資料2の続きがプロフィール。このプロフィールもここから抜いております。

それから資料の3枚目はこれもこの本に載っているんですけど、ふるさと音楽賞日本創作童謡コ

ンクールで生まれた童謡を一覧で持ってきました。

上から12曲まではこのコンクールの受賞されたふるさと音楽賞受賞曲を12曲。それから下から2番目は第10回の記念曲。コンクールに応募された曲ではなかった湯山昭さんに委嘱をして作られた曲。一番下の「童謡唱歌のふるさと鳥取」シンボルソングということで中田喜直さんに依頼して作った曲を参考までに載せております。

こうすることで、どのような曲にしたらさらにいいか先生方のご意見を聞かせていただいて決定していけばいいかなと思います。委員長よろしくお願いします。

●小谷委員長

はい。今、資料1,2の説明をしていただきました。その場面々々でどういう曲を使っていくのか、ということで、先催県の例もあげていただいておりますが、どういうふうにするのかということをお委員さんのお知恵を拝借しながら、決まるところはどんどん決めていきたいというふうに思いますが。

まず、早いところでブルーのところですけども、「君が代」について、これは問題ないわけですが、「ファンファーレ」をどういうふうにするかっていうのをちょっと、ファンファーレに限って、結果的には3曲あるわけですが、ファンファーレにしぼってということだけでいただけたらと思います。

既存のもの、あるいは新しく募集するのか、あるいは誰かに委嘱するのか、ということ3つが考えられるかと思いますが。大体20秒前後の曲になると思います。

●本田委員

すみません。全部違うファンファーレ？それとも一緒でもよい？

●小谷委員長

やはり変わるほうが良いでしょう。

●本田委員

前に、(昭和60年の)わかとり国体のときにファンファーレが使われたと思うのですが、あれは公募でしたっけ？

●小谷委員長

あれは公募しました。

●本田委員

県内で？

●小谷委員長

県内でしたね。全部でしたね。4曲ありました。

●竹田副委員長

それと、(平成7年の)インターハイのときも、別に4曲、新しいものがありました。

●井上委員

わかとり国体のときは、中学生でファンファーレ隊に参加しまして、もう一度あれを聞いてみたいと思いますよ。正直。サクスを吹いていましてね。当時は。

●小谷委員長

先ほど3つの方法といいましたけども、大きな式典で使った既存のファンファーレは先ほど説明のあった8曲ぐらい譜面になっていますね。

それから公募していくやり方か丸投げでお願いしていくやり方か方法しか結果的にはないのかなというふうに思いますが。

それぞれの国体にしてもインターハイにしても式典1回しか使っていませんので。既存のものでもそんなに「あのとき使ったものだな」と言う人は誰もいないとは思いますが、その辺も踏まえてご意見をください。

●新倉委員

最初先生がおっしゃったときに既存のものというのは有名な作曲家が作ったもの、あるものとい

うふうに思ったんですけども、そうじゃなくて、国体であるとか鳥取のためにつくられたファンファーレが8曲あるのでしたらぜひそれを使ったほうがいろんな意味でいいんじゃないかなというふうに考えますけど。

●小谷委員長

例えば隣の竹田先生が作られたのは確か「貝殻節」のあたまを使ったモチーフをファンファーレにしていますので、聴いたら「あっ貝殻節だ」とわかるものがあるんですけど。

●新倉委員

鳥取ならではというのがでていた方がいいと思います。

●池田委員

国体とかインターハイとか聞いたことがないのでわからないのですが、新倉先生がおっしゃるように既存の曲を使うことは賛成です。

ただ、鳥取らしさを出すってことで「貝殻節」を使われたのだったら童謡を使ったファンファーレができないかなというふうに思います。

●小谷委員長

そのほかはどうでしょうか。

●新倉委員

その8曲の長さは、ファンファーレはここに収まるくらいのものでしょうか？

●竹田副委員長

そうですね。

○濱本補佐

ちょっと教えていただいてもいいでしょうか。そのファンファーレはこの場面としては、開会宣言だとか同じような場面を想定して作られたものですか？

●竹田副委員長

そうですね。ないのは選手宣誓だけ。ここに合わないのは。あとはみなさんその場面、開会宣言、閉会宣言、あと途中の何かのときとかって言うのもありました。

●小谷委員長

その場面、開会宣言のときのファンファーレ、閉会宣言の・・・だいたい同じ場面です。

●竹田副委員長

あとは(わかとり国体大会テーマ曲の)「スピリットのテーマ」に合うファンファーレがありました。もうそれぐらいしか覚えていませんね。インターハイのときの楽譜は「あ、あった。」で終わって中身までは見ずにきました。

●小谷委員長

僕個人的には「貝殻節」をテーマにした曲が十分使えると思います。

あとは鳥取県らしさが出ている何かを使ったファンファーレではなかったようには思います。

華やかなのは華やかですけど。

どうでしょうか。

今池田さんがおっしゃったのは童謡をモチーフにした新しいファンファーレも魅力的だなということですよ。

●井上委員

ちなみに去年は豊かな海づくり全国大会もありましたので、そのときのファンファーレは上萬(じょうまん) 雅洋さんに作曲していただいて3曲作ってもらってそのうち一つが「貝殻節」であと2曲が「ふるさと」と「大黒様」をモチーフにしてつくっていただきました。

ただ、同じ全国祭なので・・・でもどちらもちんと華やかなファンファーレでしたので「大黒様」も「ふるさと」も使いやすいかなと思いました。

●小谷委員長

どうでしょうか

○大北課長

できれば、「貝殻節」とか「大黒様」とかという東部と言う感じがありましてご当地西部らしさというかそういったところはどのようなものでしょうか。味が出せるものなんでしょうか。

●小谷委員長

西部はないなあ。そんなの。

●池田委員

曲自体難しいなあ。西部の作曲家がいないから。

●小谷委員長

大山賛歌をモチーフに。

●新倉委員

大山賛歌は皆さん知っているのだろうか。

●竹田副委員長

若い人はどうだろうか。スキー場に行くといつもかかっているのですが。

○大北課長

今度の山口大会で山口の知事さんから鳥取県知事が地球儀を、バトンを受けるんですけども、そのときに「大山賛歌」を使います。

で、挨拶のときは「県民歌 わきあがる力」を使います。

山口の会場で聞きましたが、なんかいい感じかなあというふうに思いましたけど。鳥取らしいかなと感じました。

●新倉委員

演奏者の方が西部中心なのであまり無理に西部の曲にこだわることはないんじゃないかなと個人的には思うのですが。同じのというのはやはりまずいのですか。たとえば天皇陛下が、「あー鳥取に帰ってきた」みたいに思われる、というようなことでもいいのかなと。

○大北課長

(全国豊かな) 海づくり大会と同じ曲ということですか。

○坪倉主事

参考までに申しあげますと、山口大会では山口国体のファンファーレを使うことになっていて、なおかつ開会のことばと閉会のことばについては同じファンファーレを使用します。

○濱本補佐

山口の場合は去年山口国体をしたんです。したばかりだとかそういう事情もあったかもしれません。

●新倉委員

閉会と開会が同じというのはアイデアとしてはいいですね。統一感があると思います。それで始まってそれで終わるという。閉会と開会で開会を同じ曲ということではだめですね。

●小谷委員長

割と厳かな感じですね。想像がしやすいですね。

●新倉委員

私、なんとなく記憶があるのですが「貝殻節」は本当にわかりやすいし格調もあるので、第1案と言いますか一つの案としては、開会と閉会でそれをして、そのほかで対照的な軽いいいいますか、それを大会宣言の前にするという感じでいいと、私はそれがいいかなと。

●小谷委員長

では、そういう方向で音源を次回集めて鳴らすということにとりあえずしましょうか。(全国豊かな) 海(づくり大会) のもありますか？

●井上委員

丸撮りしたDVDもありますし、そこから取れるかと。

●小谷委員長

ではそれもとりにあえず。

鳥取県の題材をということを根底にすると、さほど材料もないし、既存の物を使うもんなんだと
言うことにはならないと思うので、ファンファーレについては次回実際に聞いていただいて最終決
定をしていくという方向でいきたいと思います。

そうしますと、次は（資料1の）白い（欄の）ところ。

感謝状のところ。「春の海」合唱・・・これは宮城道雄の「春の海」ですか？

●新倉委員

伴奏は何かついていましたか。お琴とか。

○濱本補佐

お琴とかはなかったと思います。宮城道雄の「春の海」とは違う曲であったと思います。

●池田委員

合唱とか音楽隊とか書いてあるのには伴奏があるということですか。書いてないのはアカペラで
しょうか。

●新倉委員

プラス音楽隊とか書いてありますしね。ただ15番のふるさとの四季（合唱）と書いていますがこ
れは伴奏があるような気がしますね。

●小谷委員長

チロルの村のホルンの吹き手はいるんですか。

●竹田副委員長

ぜんぜん知らない。

●小谷委員長

江府町にいるんですよね。

○坪倉主事

演奏していらっしゃるのをイベントで見かけたことはありますが。

●小谷委員長

プロローグのところの2分弱から3分弱の曲ですが、記念切手のところは61（回大会・神奈川）
の和太鼓ってありますが、こういう詠えは今度からはないので吹奏楽であるとか合唱であるとか式
典音楽団から離れて別の曲を持ってくるものなのか。

ここもわれわれが考えるわけですね。

○濱本補佐

はいそうです。

●本田委員

前にいただいた昔の資料の4に曲の候補の案が出てありますがこのプロローグの前っていうのは
なんとなく決まっているんでしょうか。

●小谷委員長

それはまだあるんです。

○濱本補佐

プロローグの前は今日おいでの乃村工藝社と日本海テレビジョン放送共同企業体で、演出と音楽
とでセットで考えさせていただいています。

●本田委員

前、「オーケストラ」と書いてあったので・・・ではここは考えなくて良いのですね。

○濱本補佐

はいそうです。

●小谷委員長

ここに種分けとしてプロローグと書いてありますが本来はプロローグとはいわずに式典の中の感謝状贈呈と言うところですね。

○梅田参事

プロローグはプロローグですね。

○濱本補佐

例えば「春の海」。作詞 東（あずま）くめ、作曲 滝廉太郎、編曲 信長貴富とあります。和歌山、第62回大会ですね。

●新倉委員

東くめさんと言う方が作詞ですね。その方が和歌山県と関係があるのですか。

□乃村工藝社・浅野D

ご当地というのはこだわりがないというふう聞いています。そこの部分は。曲の選曲は演奏の団体の方に決めていただいたというわけです。表彰シーンを見ていただいてイメージしていただいてそういう形になったということです。

●新倉委員

で、その東さんという方の故郷は和歌山ですか。

□乃村工藝社・浅野D

この方は地元の方です。出身です。

●新倉委員

では一応決めるときにそれにちなんだ訳ですね。

□乃村工藝社・浅野D

選曲は地元の方にお任せしておりました。

●新倉委員

そうですね。そうじゃなければ普通出てこないですよ。

●小谷委員長

いかがでしょうか。感謝状贈呈、記念切手贈呈のところであまり邪魔をしないで聞かせる音楽を。

●新倉委員

ここはあまり大きな音というイメージではないですね。BGMみたいな。

●小谷委員長

ここでは何か読んだりしますので。感謝状贈呈のマイクがはいりますので。

●新倉委員

弦楽とか合唱とかそういうイメージですね。太鼓は大きそうですね。どんどん小さくなるのかな。

□乃村工藝社・浅野D

リズムになっていく感じです。

●新倉委員

なるほど。

●小谷委員長

ちょっとまた戻ってきますが、置いておきましょうか。両陛下の御着ですか。イメージ的には車で来られて車を降りられてから座るところまで行かれる間に流れる曲ということですね。先催県では県民歌だとか「威風堂々」だとかがよく使われていたというような話を聞きましたけども。

●新倉委員

60回はちょっとBGM的で、61回と62回はわりとじゃーんとやっちゃうって感じでしょうね。

○坪倉主事

写真を手元に持ってきているんですけど、このようにお野立て所に向かって両陛下が手を振られながら歩いていかれる場面、手を振りながら車から降りて歩いて、最後ご着席になられる、というような場面でかかるわけです。

○濱本補佐

小さいですがここにパネルがありまして、ここの建物の中に着席するまで流れる曲で、例えばここまで車で到着されてから、ここを歩くなりして、ここに入られるまでに流れる曲ですね。

○坪倉主事

たまたま今、2年連続で62回大会の和歌山県、今年の山口県は県民歌を使っています。

●新倉委員

「威風堂々」はいつ使われましたか。

○濱本補佐

52回大会山梨県。この前の(全国豊かな)海(づくり大会)は「威風堂々」。

●井上委員

(全国豊かな)海づくり(大会)はほぼ毎回「威風堂々」。いろんな県でやられるけど、中間部のとこだけ何回もリピートで。

●新倉委員

何分くらいで？

●井上委員

1分半から2分くらいですね。ステージの端から端までなので。

●新倉委員

3分あれば、2回いけるかもしれないな。

○濱本補佐

宮崎は、「祝典行進曲」とか。

●小谷委員長

団伊玖磨先生。今の天皇陛下が結婚したときに団伊玖磨さんがつくった曲。「祝典」はね。王宮の「威風堂々」。「祝典」は面白いかな。

●竹田副委員長

僕は県民歌が好きだな。

●井上委員

この式典以外で県民歌を使うことは？

●小谷委員長

今、乃村工藝(社)さんが今考えておられるけど、ここで使ってしまうとまた別のものを考えられますよね。

□乃村工藝社・高井D

はい。

●竹田副委員長

ただ歌うのであれば、こちらは演奏・・どちらか歌うのであればちょっと考えた方がいいのかもしれない。どっちかが器楽でどっちかが歌ならよいですが。

●小谷委員長

うちの県民歌は格調が高いからね。団伊玖磨さんが作っておられる。「大山」で始まる歌詞も格調高いです。和歌山も御着のときは県民歌。神奈川も丹沢賛歌なので県民歌に近い。

○坪倉主事

ちなみに、今年の山口県も県民歌です。

●新倉委員

県民歌いいんじゃないでしょうか。吹奏楽と合唱で。オケも一緒に入っても音が面白くなるし。

●小谷委員長

ではここは県民歌で。

●新倉委員

賛成です。

●小谷委員長

ついでに21の御発。

●竹田副委員長

僕は「大山賛歌」がいいです。

●小谷委員長

僕はちょっと難しいかもしれないけど、(藤田)玄播(げんぱ)さんの「ふるさと鳥取」の終わりの合唱のところ、すごく盛り上がるんですよ。いいなと思うけど、どこからやるのかがちょっと。

●新倉委員

源田さんのやつですね。3分ですよ。最初と最後をよくつなげるんです。最初ふるさとで始まるでしょ。それで最後にふるさとがまた戻ってきてそこで盛り上がるじゃないですか。あれをよくつなげて最初ふるさとにして、そうすると3分はあるな。ただ去年やったっていうのがあって。まあ「ふるさと」は何回やってもいいよ。

●小谷委員長

竹田さんは「大山賛歌」がいいんだよね。

●竹田副委員長

個人的にはです。せっかく大山が見えるからなと思って。

●本田委員

花回廊は南部町で、足羽章さんの地元ですから。この方の歌はいっぱいあるんですけどね。あまり知られてないですよ。

●小谷委員長

童謡をいくらアレンジしても厳かにはならないと思いますがね。

●池田委員

「大山賛歌」使うんだったら始めのほうのプロローグで使って、ふるさとを最後のほうで使うというのがよろしいのではないのでしょうかね。

●新倉委員

今年の(第63回全国植樹祭・山口県大会)で「ふるさと」を使うって言っていましたよね。

○坪倉主事

山口県は御発のときはバンブーオーケストラで「ふるさと」がスローなテンポで演奏されるという形です。

●小谷委員長

バンブーオーケストラはすべて竹で鳴らしたりたたいたり。次回はこの会はいつごろの予定ですか？

○濱本補佐

実は最後に報告しようと思ったのですが、5月27日に山口の大会がありまして、小谷委員長と竹田副委員長に山口に見に行ってもらいたいと思ひまして、その後に報告も含めてと思ひおりましたので、6月の中旬とか。

●小谷委員長

決めるのはそのころになっても大丈夫？

○濱本補佐

いや、練習とかありますので。編曲があるものなら。先ほどのファンファーレは既存のものというところでお話したいと思いますけど、次にどのような作業があつて、ということがありますので。編曲ですとか。

●小谷委員長

例えば今候補に上がった「大山賛歌」であるとか、僕が言った「ふるさと鳥取」の合唱付きの後半部分そのところの・・・

●新倉委員

「ふるさと鳥取」ですか？「ふるさとの四季」ではなくて。ああ、「ゲンダ（源田俊一郎）」ではなく「ゲンバ（藤田玄播）」ね。わかりました。

●小谷委員長

そのところの音源を持ってきて聞いてもらって、これをもし使うなら楽譜もありますけども、ただどこをどう切つて、3分どこを使うか問題がありますけども、「大山賛歌」の使い方だとか、そういう音源をみなさんに聴いてもらって。

○濱本補佐

6月上旬くらい？中旬くらいまでに？音源の準備状況がどれくらいかかるかわからないところがありますけれども。

●小谷委員長

これは探せば明日にでも用意できます

●井上委員

早めに音階を。その3曲は必ず使うことにして、どこの場面をどれだけ使うかっていうのだけはどうでしょうか。あと2箇所だけどうするかということがまっさらなんで。

●小谷委員長

そういう絞り方ね。「大山賛歌」、「ふるさと」、「ふるさと鳥取」と「県民歌」と。そうとなれば、さっきのファンファーレも含めて音源を集めて5月末までに、山口に行くまでに聴いていただいて目安をつけることは、可能は可能だと思いますけど、皆さんの忙しいかどうかなのかなと思いますが。

●池田委員

CDに入れていただいて皆さん家で聴くことは？

○濱本補佐

そうですね。

●小谷委員長

どうでしょうか。ここに音源を届けてコピーを作つて貰つてそれぞれに渡してもらつて聴いていただくと。

○濱本補佐

それぞれで聴いていただいたほうがよろしいでしょうか。それとも集まつて？どんなものでしょうか。

●小谷委員長

もしも皆さんがよろしければみんなと一緒に聴いて、ああだこうだ言ったほうがいような気もせんでもないですが。

○濱本補佐

おそらく一応いつまでにいただいてって日程を決めさせていただいて。山口に行く前に聴いてもらったほうがよろしいでしょうか。

●小谷委員長

どっちでもいいんだけど、帰ってきてからということになると6月に入ってからじゃないと決められないのでどんどんずれていくというだけです。

○濱本補佐

早めに配らしていただいて、そこで意見を会議がなくてもいただくことにいたしましょうか。

●小谷委員長

それでいいですよ

○大北課長

ファンファーレの音源はあるんですか。

●小谷委員長

国体のはある。

●井上委員

海づくり（大会）は僕のところにあります。

●小谷委員長

インターハイのは？

●竹田副委員長

どこかの教育委員会にDVDとかビデオであるんじゃないですか？

●小谷委員長

聞いてみてから考えましょう。

○濱本補佐

国体、インターハイ、海づくり大会のファンファーレを集める。それと「大山賛歌」も？

●新倉委員

私は聴きたい。あまり覚えてないので。

○濱本補佐

「県民歌」はよろしい？「ふるさと鳥取」と。

●竹田副委員長

僕は「大山賛歌」と言いましたが、池田先生が言われたみたいに、最後は鳥取県がふるさとだというのが一番だと思うので、山口が歌うのはあくまでも「ふるさと」の曲がすばらしいから歌われるのであって、うちがやるのが一番だと思うので「ふるさと」も入れといてください。もし短ければ間に何かかませてやればどうにかなるかなと思います。

○大北課長

ちなみに、13年前の皇太子殿下が来られた全国育樹祭のファンファーレ2つ作ったんですけどもね。

●竹田副委員長

鳥取市にあるはずですよ。鳥取市だけが関係したので。

○大北課長

公文書館で探してみます。

●小谷委員長

そうすると、式典の中でやる場面は、とりあえず今白樫が3場面ありますのでそういう候補を実際聴きながらこの場面に当てはめたら、という形で進めていくことにしましょうか。では、ファンファーレと白樫のところの曲については今日とりあえず候補を上げておいて

●池田委員

ちょっとよろしいですか。選曲方針が「郷土の生んだ作曲家の作品を中心に、「童謡・唱歌のふるさと鳥取県」を表現する。という方針があるんですけど、今の選曲じゃ「ふるさと」しか入ってな

い。

●竹田副委員長

ですからプロログのところ合唱隊にやっていただいて岡野貞一さんと田村虎蔵さんの歌をメドレーでやっていただければすべて満足がいくのではないのでしょうか。

●新倉委員

まだ（資料1のプログラムナンバー）13の表彰は・・・ここも今の・・・

●竹田副委員長

まだ決まってない。

●新倉委員

ここに入る可能性もあるということですね。

●小谷委員長

ここは8分ですね。

□乃村工藝社・浅野D

この8分は昨今の両陛下の御容態を鑑みて山口植樹祭も5分ぐらいに短縮しています。なので5分程度になる可能性が大きいという現状です。

●新倉委員

池田先生が郷土の生んだ作曲家の作品を中心という方針ってことを言われましたが、感謝状贈呈のとき、「春のシャンソン」。高木東六さんの。招待でいらっしゃる方の平均年齢にもよると思うんですけど、どれくらいですか？結構高いですか？

○大北課長

結構高いんじゃないでしょうか。

●新倉委員

「春のシャンソン」って結構さわやかであんまり邪魔しない曲なんですよ。昔中学の教科書にも載っていた。さわやかでBGMっぽくなるし。まあ、どちらかで。

●小谷委員長

これは合唱かなんかに書きかえられますか？

●新倉委員

歌としてあるんですね。合唱に書きかえられるのはかまいませんけど。

●竹田副委員長

斉唱でもいいと思うんですけどね。童謡やなんかの場合はみんなできれいに歌えれば。場面になったところで女性だけにするとかユニゾンでもダビッドソンでも男性ソプラノでもキーボードでね。

●新倉委員

この次もどなたが参加するかとかにもよりますね。みんなで歌うんだったらあんまりわからないほうがいいです。一つの候補として。また西部の人が作った曲ということで留めといていただければ。

○濱本補佐

感謝状贈呈のところ？（資料1のプログラムナンバー）13（表彰）？

●新倉委員

いや、僕は8（感謝状贈呈）か9（記念切手贈呈）がいいのかなと思ったんですけど。13の表彰でバックミュージックでも。わりあいさらっと流れていって、あんまりウワンといった曲ではないので、BGM的なところでいけるかなというところでね。最初にイメージしたのは8番のところではないんじゃないのかなと思ったんですけど。

●小谷委員長

まあ、8番9番13番はいずれも同じような場面の音楽ですから。どこに入っても主張しすぎない音楽ということ。

●竹田副委員長

この3つの場面でそれぞれこちら地元の方の歌をピアノ伴奏とか、僕はなってもいいと思いますし、弦伴奏があるなら弦楽伴奏でやられれば雰囲気も出ると思いますし。

●小谷委員長

そうですね。では、どこでととりあえず限定しないで8番9番13番を含めて、13については8分弱となるのが4、5分程度に縮まるだろうということを含めて、あまり邪魔にならない音楽を童謡とか、いわゆる選曲方針に基づいたようなスタイルをそこに当てはめていくという大雑把な方向性でいいですか。

そうしますと、とりあえずその枠の中の方向性だけを押さえておいて、次はピンクの部分ですけども、採譜の現状、資料もあるようですが、資料5について先に説明していただいて。

○坪倉主事

去る3月31日、4月1日に式典音楽の採譜を行いました。これは大山まきばみるくの里、とっとり花回廊、エバーランド奥大山周辺、全国植樹祭の本番の大会開催町のみどりの少年団57名が参加しています。映像に3分半ほどでまとめていますので、それをご覧いただきながら説明します。

(採譜の手順について、ビデオ視聴)

今後の流れといいますのが、5番の今後の進め方としてここに書いてありますが、5月20日に開催するプレ全国植樹祭で再度採譜を実施します。そして採譜の結果得られるメロディーですけれども、それが5、60ぐらいに重なりましてひとつの作品となる。それを先ほど資料1に当て込んでおりましたけども山のメッセージ、木のメッセージ、草花のメッセージ、その他すべてのメッセージというテーマに基づいて、桜井先生がメロディにする。2回目の採譜をする。5月20日にはある程度メロディができています。そういうふうになっております。

山のメッセージは当日天候が悪かったせいで、ご覧いただきますようにサンプル数が少ないので、2回目の採譜は、山の採譜を中心に行うということになります。以上です。

●小谷委員長

乃村工藝さんがいらっしゃるんでちょっと聞きたいんですけど、この間サンプルを聞かせていただいたときに単旋律だけじゃなくて和音もありましたよね？そうすると桜井さんが作られてくる楽譜というのは、ピアノ譜と歌の部分ができるということですか？

□乃村工藝社・浅野D

今ところは、16小節を一つのシートとした形で子どもたちがした採譜を、うちもできる限りのサンプル数で作ると。あとはそれを素材としてそれを実際の曲という形にしていくというような流れです。

●小谷委員長

極端なことを言いますと、それをピアノの伴奏として歌うことは可能？

□乃村工藝社・浅野D

それは可能です。

●小谷委員長

伴奏譜まできちっとできあがるということですか。

□乃村工藝社・高井D

今、子どもたちが作ったメロディのラインを16小節という形で作っていますが、それに形を仕上げをお願いしてもらって、それをいただいて後はこちらで自由にアレンジしていただきたいという形で進めていきます。

●小谷委員長

以前いただいた資料の中では、1は合唱隊、2はCD、3はオーケストラ、4は吹奏楽と合唱という形になっていますよね？例えばこの合唱隊が加わる場所には言葉があるんですか？歌詞が？

□乃村工藝社・浅野D

大会メッセージを合唱の歌詞として展開するというのを想定しています。

●小谷委員長

今ご提案のことですとCDの音源ですけど、例えばこのとおりだとするとこれはいじる必要がないですし、いのちのメロディについては吹奏楽にアレンジしなければいけないという作業がいりませよ、合唱も単旋律ならほっといていいけど二部にするならそれ、オーケストラについてはオーケストラに書き直さないといけないし、4についても吹奏楽におとさないといけないという作業がありますね。それは(乃村) 工藝社さんはされない?

□乃村工藝社・高井D

ご相談しながら進めたいと思います。

○濱本補佐

実は前回CDとかオケ(オーケストラ)とか合唱とか吹奏楽とかお配りしたのですが、今回お配りしたのは一旦外しておまして、この間新倉先生から、オケとか弦楽が出るのは一箇所じゃもったいないねというご意見をいただきましたので、今回合唱隊とかオーケストラとかについてはゼロから検討いただくようにしています。

●小谷委員長

僕が言いたいのは、前回そういうのがあって、今聞いた、ピアノ伴奏ができるところまでは作れるけどそこから先は、乃村工藝社さんがやれと言われて渡されたらやれるけれども、こちらでもそれなりの段取りを踏まなければならないということですね。それが確かめただけです。

いずれにしても桜井さんのほうからはピアノ伴奏大要のところまでしか楽譜がないということなので、当然これをいわゆる用途にあった形にアレンジしていかなければいけないという作業が起こってくるということを頭に置いていただいて。

植樹祭課のほうとしては前回皆さんにご提示されたように、これはプレゼンテーションでこの企画で乃村工藝さんが受けていらっしゃるからこのアイデアは外せないということなので、そのことについてどうこうではなくて、出てきたものをやるんだけどそれを吹奏楽なり合唱なりに書き換えていく作業がある、ということをご共有認識しておかないといけないということです。

●新倉委員

質問があるんですけど。今日の資料の1の13番のところの曲、前は(いきものがかりの)「ありがとう」というのがあったんですけどこれは結局選曲方針の郷土の生んだ作曲家云々ということで「ありがとう」は消えていったんですか。

□乃村工藝社・浅野D

消えているわけではありません。ご意見をいただきながら、今は少なくとも「ふるさと」をはじめ「大山賛歌」「県民歌」というものもありますので、そういう部分を加味して、中身が埋るようでしたら「ありがとう」を消してもよい。というふうに思っております。

●新倉委員

わかりました。それから、16、17(大会テーマ表現)。草花のメッセージとか木のメッセージとかそういう今の見せていただいたけれども、14(苗木の贈呈)、15(お手植え・お手播き)は場面としてそれが流れていて紹介とかもあるんだろうけど、流れていて贈呈があったりお手植えがあったりするって感じなんですけど、16、17はいのちのメロディで山のメッセージ大会テーマ表現ってこれはどういう時間なんですか。それを聞いてください、みたいな時間になるわけですか。

□乃村工藝社・浅野D

聞いてくださいというふうに。もちろんメッセージが当然主ではあるので

●新倉委員

メッセージというのは言葉でメッセージを誰かが言う。1,2,3と3人が言う?

□乃村工藝社・浅野D

その構成が例えば集団で1グループ2グループ3グループというのが今のイメージです。

●新倉委員

3つに。とにかく3つのグループあるいは個人、そのときに流れるということですね。そのメッセージの内容は1,2と書いてあるのはだいたい山のメッセージなんですね。

□乃村工藝社・浅野D

実はそのメッセージというのは実は採譜のことイコールっていう意味を持ちまして、採譜は自然からとったすべての音楽自体がメッセージだというような前提で、音楽自体をメッセージと言いつつをかかりつけて言っているというイメージで結構です。実際大会の中で本当の意味での自然のメッセージを感じる。そんなことをイメージしています。

なので、草花のメロディでよかったんですけども。

●新倉委員

それはわかるのですが、16,17は音楽による山のメッセージがありますよね。それプラス言葉によるメッセージがあるということですよ。

○濱本補佐

言葉によるメッセージもありますし、ここでいろいろとパフォーマンスをするということです。

●新倉委員

どういう意味ですか。パフォーマンスとは。

○濱本補佐

山口でいえばダンスのようなものを取り入れています。

○近藤補佐

アトラクション的なものだと思っていただければいいですけど。福井県の場合は一筆啓上って自分が森に対する一言を詠みあげるといったようなアトラクションなんですけど、そうじゃなしに集団的に演技をするようなものも入ったりもします。

うちの場合はこの中身についてはある程度方向性は出ていますけど演出についてはこれから詰めていきます。

●新倉委員

その方向性っていうのをお聞かせください。

□乃村工藝社・浅野D

今から調整するところですので、実際はそれが決まってからきちっとした話をしようと思っておりますけども。今の段階で、山口のところでは表現したところが似ている部分がありましたので、できれば変えたいかなと思ひまして、その部分をフラットにさせていただいて、再度練り直そうという段階にあります。

○濱本補佐

和歌山の写真を見せてください。

最後の「愛樹の誓い」というのは、その前には和歌山にある舞踊学校の生徒さんのパフォーマンスがあって愛樹の誓いを最後に歌ったのかな・言葉で結局は愛樹の誓いを述べたと。ただしゃべるだけではない。

●新倉委員

それはこれからまた出てくるって話でしたね。だいたいわかりました。もし桜井さんが全部をやらぬ場合、我々に何か投げられる場合に、スケジュールはどうなっていますか。何月ごろどうして、みたいな。

□乃村工藝社・高井D

今、夏ごろからというふうに想定しています。前回実施した採譜からメロディをおこすという作業が5月の末には出てくるとお思いますので、そこから6月7月の間に練習にむかってアレンジをどこか誰かにお願いさせていただくか我々とする方向であれば我々もしないといけないのが2ヶ月くらいの間。

●新倉委員

6月7月ですて、8月から練習開始。

□乃村工藝社・高井D

はい。そのときにはこれからどの形をお願いするか決めてきていただくと思うのですが、決めて頂いて夏ごろから練習に入るということで。

●新倉委員

わかりました

●小谷委員長

(資料1の) ピンクの(欄の) ところに関しては、もう一回確認いたしますとピアノ伴奏譜的なものの仕上がりが5月末までにできて、それに基づいて2ヶ月くらいかけて吹奏楽、合唱等々、オケ(オーケストラ)にアレンジをして夏ぐらいから実際練習に入るというわけですね。

そうしますと、出来上がってきたものをそれぞれの用途にアレンジしていくという作業についてですが、そこまで今日煮込んでおきたいなというふうに思いますが。

我々の思うような形でアレンジをしていただく方法、結果的には誰にお願いするか。端的に言うとなんかというふうになると思うんですけど。白羽の矢が立つのは。どうでしょうか、委員の皆さん。

●本田委員

(新倉先生は) そのためにここへ出席しておられるということかと思っております。(笑)

歌があって伴奏があって、だけでは難しいですよ。1つの16小節のメロディにしなくてはならないですよ。

●井上委員

旋律がたくさんあって出てきて、組み合わせさせて使ってやってもいいかも

□乃村工藝社・浅野D

そちらになると思います

□乃村工藝社・高井D

ベースの部分を作っていたらいいのでそれはこちらで好きなようにアレンジしてくださいというような形でのお願いです。

●新倉委員

3つくらいあるんですかね。桜井さんが全部アレンジをやってそれをまた演奏するパターンもあるでしょ。あるいは、桜井さんがやった場合に大掛かりな楽器じゃなくてキーボードと何かでやるって案としてはある。

□乃村工藝社・浅野D

桜井先生から、これは普通の会話レベルの話ですが、吹奏楽に関してはあまりご経験がないので、その部分の作曲は難しいという話をチラッと聞いています。

●小谷委員長

吹奏楽以外はだいたいできる。もう1つは、そちらにお任せする。例えば専属のアレンジだとかいうわけですか。そういうこともありえるんですか。2番目としては。

□乃村工藝社・浅野D

実際採譜という流れをくんでいますので、こちらに全面的にということであれば桜井先生にも結局一緒にいていただいてアレンジに加わっていただくことになると思います。

●小谷委員長

3つ目としてはここにいる誰かがやるということ。吹奏楽は(竹田)先生がやるとかそういう感じになってきますよ。(笑)

●竹田副委員長

そんなことはないです。専門家がいらっしゃるのに。

●小谷委員長

どういふふうにしたほうがいいですか。いずれにしても、使う曲が決まったとしてもそれをたとえば3分に収めるとかいう作業はどっちみち必要なもので、そうするとやっぱりアレンジ的なものに携わる人が必要になってきますね。

○濱本補佐

先ほどの話ですけど、私どもとしては、乃村（工藝社）さんとも相談しないといけないのですが、鳥取県の人、鳥取県で活動している人、桜井先生に来ていただいたとして、その次に作業があるんですしたら鳥取県の人、鳥取県出身の人、鳥取県で活動している人にしていただくことが私どもの思いです。

●小谷委員長

思いですね。よくわかります。そうすると、(式典音楽専門) 委員であろうがなかろうが、鳥取県でということになると、もう決まってくるような気がせんでもないですが。皆さんのご意見はどうでしょうか。

□乃村工藝社・高井D

もともと桜井先生も鳥取の方ではないですけど、鳥取の自然からの取りたいということでご我々の提案としては採譜ということで、桜井先生を提案させていただいているので、作曲を県内で活動されている方にやっていただくということに異論はありません。

●小谷委員長

どうでしょうか。委員の皆さんから声が出るといいんですが。

●新倉委員

なんとなく私がやらなきゃいけないようなことになっていますが・・・(笑)

出てきたものがどういふものかそれで戸惑うことがあるんですよ。やりたいなあって思うのか。やっかいだなあとか。それによってだいがモチベーションが変わってくる。

●小谷委員長

結局姿が見えんのでたぶん色々悩まれると思いますよね

●本田委員

お一人でと限らず、複数のかたとか、分けてとかメッセージ別とか。

●井上委員

編成もそれぞれの編成で違うでしょうし、いろいろあるでしょう。

●本田委員

(子どものつくった楽譜を) 見せてもらって思ったのは、上のほう、ここもやっぱりメッセージがあったら、とんでもない音域になっちゃうなと私は思いました。

●池田委員

ここの部分でパフォーマンスみたいなんがあるとおっしゃいましたよね。それは、どういふ具合になるかとかぜひ見えてこない。

●新倉委員

その内容によってだいが変わるもんね、曲のイメージとか。

□乃村工藝社・浅野D

16, 17 番についてはもう少し練ってご呈示じできるようにしたいと思います。

●小谷委員長

どうしましょうか。そうしますと先ほどのスケジュールでいくと5月末にできるということなので、たぶんそのときにはどういふシチュエーションでやるかってのも当然決まってくるので、こういふイメージのかたちの編曲してほしいという意向が出てきますよね。こういふ場面での。

ということなので次回の6月にはアウトラインはきちっと出てくるということになりますよね。

そうすると、とりあえず事務局の思いで、県内のそういう方をお願いするというので、ある程度新倉先生も腰を覚悟されている部分も。

●新倉委員

そんなことはないですが、全体としてそういう方向で、ということ。

●小谷委員長

ではその辺のところまで今日決めておくということ。次回には乃村工藝さんのほうからももっと具体的な指示が出てそれに対する我々もディスカッションしながら場面を作っていくという方向の話し合いができるという方向で今日まとめていいでしょうか。

そうしましたら、資料1、2、5にまつわってほしい話があるように思いますが、もう一つ大きな問題が資料4の弦楽器の参加について、前回の会議では一応持ち帰っていただくということで、持ち帰っていただいた結果を報告していただいて、と思いますが。

●本田委員

参加しましょうという話。どうも一番難しいところに割り当てられたのではないかと思います。

今までどこにもなかった楽譜が割り振られるのではないかと、練習がなるべく早くしたいので楽譜はなるべく早いほうがいいですね。

もうひとつはその他とありまして、米子東高校には弦楽部がありますよと申したわけですが、まだそこまでは考えておられないと事務局はおっしゃっていましたので提案しておりました。まだ私が米子東校に連絡を取ったわけでも何でもありませんので。これは顧問の先生のお宅のほうです。

●小谷委員長

小編成だということについては。

●本田委員

小編成かどうかとか、どういう編成が求められているかについては、まだ曲がわからないので。

●小谷委員長

人数的には小編成だってことこの間ちらっと言われましたよね。弦楽合奏には50人も80人も求められないかと思いますが。

○濱本補佐

前は20人ぐらいと

●小谷委員長

その範囲ぐらいだと思います。

○濱本補佐

実際に曲が何も決まってないし何も決まってないので、どのような編曲かもわからないし

●小谷委員長

実際に事務局として考えられるのは20人ぐらいの編成ということなので。

●本田委員

小編成とはわからないんですけども

●井上委員

相当小さいですよ。6-6（バイオリン）とか5-5-4-4-3（第1バイオリン-第2バイオリン-ヴィオラ-チェロ-コントラバス）とかそんな感じですね。

●新倉委員

米（子）管（弦楽団）で説明したところってのは弦楽器がってことですね。弦楽器は何人いらっしゃるんですか。

●本田委員

今すぐぱっと出てこないですけど。2, 30 くらい。30 はいないですね。

●新倉委員

30人くらい？20人くらい？

●小谷委員長

編成がだいたい決まるともちろん楽器の配分も決まっていくんだと思うので、足りないところは他から、当然ね、それなりの編成にあったもの、第1バイオリン何人とか、パート別の数は決めといて、いなくても補充ができるということの対応ですね。

●新倉委員

20人の根拠は何でしたっけ？

○濱本補佐

屋外なので。例えばオーケストラなら100人とかそういうことは難しい。場所的にも。

●新倉委員

場所的にはわかりますよ。吹奏楽も入るし。合唱も入るんで入らないだろう。場所的な意味で。

○濱本補佐

はい。そもそもどんな曲をするかということもあるんですけど。

●新倉委員

それで、例えば米子管弦楽団の弦楽の人たちが参加しようとするときに「あなたは要りません」みたいなことはちょっと失礼じゃないかと思うんですよ。30名いてね、「米管で参加することになりました。でも20名にしたいからあなたは出なくていいです。」っていうのはちょっと考えられないような。

●小谷委員長

これだけの編成ですって決まったときに楽団なり個人的意思なりで来てもらうということはある。

●新倉委員

個人にかえるということですね。

●小谷委員長

吹奏楽の場合でも、切るんですだいぶ。だからそれはやむをえない。

●新倉委員

ある団体から何名とか。それはそういうことで米管はやむをえないような？吹奏楽とオーケストラとの違いがどうなのかちょっとわからないですが。習慣みたいな。ありうるんですか。

●本田委員

そうになったら仕方がないですね。

●新倉委員

さっきの最終的には、足りないところは集めて、みたいなかたちもあるし、オーケストラ連盟から入るかもしれない。そうすると米子管弦楽団では20名。プラス、あるバイオリンでオーケストラ連盟で何名、米子東高校から何名、とかありうるんですか？ということが聞いたかったんです。

●小谷委員長

(米子) 東高の弦について当たられましたか？

○濱本補佐

教えていただいたぐらいで、それからは当たっていません。私、20人って言いましたが、それが25人じゃどうしてもだめなのかってことももちろんありませんので、それと米子東高校のほうは教えていただいたんですけど部活動としてあるのでピックアップっていうのが非常に難しいと聞きまして、私のほうから(米子) 東高校にはしてないです。

○近藤補佐

今、乃村JVから話がありましたけれども、テントの規格でいきますと今290席だそうです。音楽隊のテントが。

●本田委員

席と言いましても、コントラバスなんかは場所をとりますし、譜面台もおきますし。それは吹奏楽も一緒ですけど。

○近藤補佐

それよりももう少し広くするとすると、全体も音楽隊席もちょっと微調整つていいですかね。ちょっと下げるとか。そこにかかってくる状況です。

●新倉委員

吹奏楽は何名でしたっけ。予定は。

○濱本補佐

100から120ぐらいで。合唱も100から120。

●新倉委員

私が心配しているのは、さっき言ったことと声をかける前にどうやってあれするかって、それはでも僕のほうではわからないので、もうひとつはさっき井上さんが口走っていたと思うんですけど「大変ですね」というのがあるんですよ。少なければ例えば極端に言えば弦楽四重奏でやろうって言った場合は、相当腕のいい、そう言っちゃえば失礼だけどプロなんかが来ても弦楽四重奏だともううまくいかないことがありますして、そういう意味であまり少なくすると難しくなるのかなってところがあるんです。

もうひとつはそれもやる曲によるんですけども、じゃあせっかくいるんだから吹奏楽の方と合唱の伴奏でオーケストラ的な合唱の伴奏をしたいなって言ったときに、吹奏楽からもかなりピックアップしなきゃいけないし、20人だと寂しいかなとかなり負けるといふか、吹奏楽が普通にやって100人の吹奏楽が例えばやろうと、対抗する弦がPAをいれたとしても、PAがまた弦に似合わないんですよ。むずかしい。やっぱり曲を決めるしかないかな。

●井上委員

一緒にしないほうがいいかな。ざっとみても22人ぐらいが最小限。アマチュアでやるぶんには、それより少ないと音にならないと思うので。

○濱本補佐

やはり編成より楽曲を決めるのが先っていうことになりましたので。いろんなことに限りがありますので人数もいらんでご意見いただきたいと思うんですけど。楽曲が先かなと。先を見据えてご意見をいただきたいかなと思うんですけど。

●小谷委員長

ですので、20に限定しているということではないけど、それが30になったり40になったりはしないということをおさえといてもらえば。

そうしますと、弦を使って、おそらく吹奏楽と弦との共同というかたちはありえない。そんなに効果も上がらないし。ということで弦を使う場面はまた場面として作っていくということです。

●本田委員

「弦楽よかったな」という使い方をされたいです。

●小谷委員長

そのこともとりあえずおさえました。

次に残ったのが資料3の高校・中学校の吹奏楽部の概要調査ということで、資料3に出ておりますが、これは米子北高の現状の編成というか部員のパートですが、こういう調査を今のところ高校と関係市町村の4中学校に調査をして120人の編成決めをどういうふうにするかというのを次回に図ったらということをおさえて…あ、僕ではなく事務局から説明してもらいます。

○濱本補佐

編成を決めるに当たってこのような資料が必要になるのではないかと思います。西部の高校、または開催地の中学校の吹奏楽部の人数といいましようか構成を調べたいなと思っております。

申し上げましたように、米子北高の竹田先生に教えていただいて調べていただいて、示させていただきました。

非常に勝手ではありますが、もしできれば竹田先生に高校の調査をお願いできたらなと思っておりまして、いかがでしょうか。

●竹田副委員長

どこに声をかけるのですか。

○濱本補佐

西部を中心に、境港市、米子市とっております。あと日野郡も。

●竹田副委員長

お考えは、例えば4校で120人にしたい、それプラス中学校なのか、全部の学校から5人、あなたのところは5人、あなたのところは10人、あなたのところは20人って考えなのか、県の方針をお聞かせ願えないとアンケートをとった方がいいが「何に使われますかな」と聞かれるんですよ。

「いやちょっと・・・」って「じゃあうちも出してもらえるんですよ」って期待感があるんですよ。

私も今はこの立場で言ってますけど、色々としこりを残すとまずいで。県としてその方針を出していただかないと全部の高校に声をかけていいのかなって言う問題があるって僕は思うんですよ。中学校は4校入れられるってことは私どもの気持ちで言いましたのでそれでいいと思うんですが。

○濱本補佐

編成に当たって音楽を作っていくうえで、どの格好がどうかよくわからないのですが、完成としていい音楽ができる編成メンバーっていうのもあるのでしょうか。それとも、一番最初にこのメンバーを決めるときにあたって、できるだけ幅広くっていうひとつの考えがありましたので、そういう考え方でいうと何人、何人っていう割り当ても・・・それでうまく演奏できるのかってのもありますんでちょっと考えさせていたきたいと思うんですけど。

●竹田副委員長

基本方針が幅広く、だから練習にしたってバスでどこからでも行きますよというような感じでもどこであろうとも全部出しますよって言うことであれば幅広く集めてできる可能性もあります。それなりの演奏はできます。ただそれなりの演奏が、県が思っているレベルの演奏ができるかどうかはやってみないとわからないっていうのが現状ですね。じゃあここと、ここと、もうここでやってくださいって言われたらそれは県が思っているそれらのレベルにはできることは可能ですね。

○濱本補佐

たとえば山口では…

●竹田副委員長

山口は全部知っていますので。(山口県の吹奏楽の先生が)「山口は国体のメンバーがごっそりそのまま来ますから」って(言われていた)。「ああそうですか」って。「それなら練習もできていますね」って。だから比較にならないですよ、山口県さんは。

○濱本補佐

練習もそこで十分できているということですか？

●竹田副委員長

やった曲でやりますので。

●新倉委員

経済的だね。考えたね、山口(県)が。

●小谷委員長

(国体と) 時期が引っ付いていたしね。

言われるように、練習のことも頭に入れながら、例えば日野、境を巻き込めば当然その子たちが来るバス・トラックの手配やらなにから全部しなければならぬし、例えば米子市内の高校であれば比較的そのあたりはしやすいし、そのへんのこと・結果的には竹田先生としては吹奏楽連盟の立場である学校とあの学校とあの学校はというかたちは言えない。

●竹田副委員長

あと、あなたの学校のこの子とこの子とこの子も言えないんですよ。非常に難しいです。

●小谷委員長

例えばこの間見せていただいた福井は2校だったですよ。

○近藤補佐

福井は合唱が3校、吹奏楽が3校。高校が3校ですね。

●小谷委員長

そういう決め方をしていただけるといいかなってことですよ。

●竹田副委員長

どちらにせよ最後の調整っていうのは大変なんですよ。あなたの学校から何名、あなたの学校から何名、パーセントでいっちゃう。

あるいは主な学校で全部決めといて、残りの学校にこれだけ足りないからこの楽器だけあなたの学校から2名出してくださいとかっていう言い方しかできないかな、と思ったり。

県とされたら資料がほしいということであれば、何もかもわずらわしく現在の部員数と楽器をお知らせください、私が知りたいのと言えればそれは集まります。何も言わずに。

○濱本補佐

もしそれで資料としていただけるようでしたら。

●竹田副委員長

じゃあそれで行きます。

●小谷委員長

とりあえず、西部の高校を対象にして条件をつけないで現状の調査ということで吹奏楽はいつもらいたいと思います。

合唱のほうについては、この間きめさせていただいたですね。では、今日はこれぐらいでいいですかね。

そうしますと、予定していた時間がちょっと過ぎましたけれども、今日与えられた議題はこなしただけではないかと思いますが、いいでしょうか。

○近藤補佐

明日ですね、課長の挨拶にもありましたけども、実行委員会の総会がございまして、国際ファミリープラザで。年度当初の総会ってことですので、決算とか活動実績であるとかっていうようなことの報告の中にも関係しますけども、この式典音楽の専門委員会の中間的な今の方向を報告しようかというふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。

●小谷委員長

事務局のほうから、そのほか何かありますか。

○濱本補佐

先ほどの音源ですが、国体とインターハイの音源のほうは小谷先生がお持ちかもしれない？

●小谷委員長

はい。あると思います。インターハイはない。やりっぱなしだったから。

○濱本補佐

(全国豊かな) 海づくり (大会) は井上さんでしょうか？

●井上委員

はい。

○濱本補佐

「ふるさと鳥取」は？

●小谷委員長

僕が持っている。

○濱本補佐

「ふるさと」は？岡野貞一の。

●小谷委員長

これは別にいいかな。

○濱本補佐

「春のシャンソン」は？

□乃村工藝社・浅野D

YouTube にありましたので、それでよければ。

●小谷委員長

では、5分過ぎましたけどこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。